

猛暑・酷暑の中で豪雨、台風、地震と災害が頻発しています。奈良県に住む私たちも久しぶりに本格的な台風を実体験しましたが、これと言った被害もなく、ただただ被災された各地の方々にお見舞い申し上げます。

それにしても、こんな時に原発再稼働なのかとの思いが強く沸き起こりました。国民の安全と地球とすべての生命のためにも、今こそ原発ゼロへと方向転換すべきではないでしょうか。

談山神社～竜在峠～天空展望台の古道を歩く

8月下旬桜井市の談山神社から明日香村の芋ヶ峠まで歩き、栢森に下ってさらに石舞台まで歩きました。10月6日に予定している山歩きクラブ例会コースの下見です。

大化の改新の舞台裏

桜井市多武峰(とうのみね)の談山(たんざん)神社、ここは飛鳥時代の一大クーデター・乙巳の変(いつしのへん)が企まれた場所とされています。この裏山にある「談(かた)らい山」で中大兄皇子と中臣鎌足とが蘇我入鹿を討つ計画を話し合ったというのです。大化の改新の序章でした。

こうした歴史をもつ談山神社の北に聳えるのが御破裂山(ごはれつやま 609m)です。この山も「天下に変事が起こると鳴動する」との言い伝えのある山ですが、山頂から大和平野が見渡せます。

古代からの街道



談山神社に戻り、南の冬野(ふゆの)に向かいました。ここからの道はかつて「冬野越(ふゆのごえ)」と呼ばれた街道で、特に多武峰から吉野への最短ルートとして、吉野山の桜見物の人たちや修験者たちも行き交い、冬野には明治末期まで4軒の宿が営業していたとの事。松尾芭蕉や本居宣長もこの道をたどって旅をしています。

←**コマツナギ** 現在、冬野には数軒の家屋があるだけですが街道脇にはコマツナギやカワラナデシコが花を見せていました。

竜在峠

多武峰から一時間ほどで竜在峠着。交差点になっており、南へ向かうと吉野町滝畑に下ります。ここにも明治時代まで旅館と茶屋があったようですが、現在では全くの山の中。

多くの人たちが行き来したこの街道も1912(大正1)年吉野軽便鉄道(現在の近鉄吉野線)開通によって廃れてしまったのです。

竜在峠から芋ヶ峠へ

竜在峠からしばらく歩くと分岐があり、右への道は明日香村入谷に至り、芋ヶ峠へは直進です。尾根を辿る道ですが、やがてアップダウンが多くなり、急坂を下って芋ヶ峠に出ました。そこには県道が横切っており、計画ではここにチャーターバスが迎えに来ることになっていましたが、県道は豪雨被害によって通行止めになっていました。

通行止めは当分解消されず、計画を変更せざるを得なくなりました。



↓カワラナデシコ



翌日、天空展望台から竜在峠へ

翌日、明日香村入谷(にゅうだに)の天空展望台から竜在峠までをピストンしました。この道もかつての街道らしく、歩きやすい道でした。登り70分、下り45分でした。道中にはマルミノヤマゴボウの赤い花が目立っていました。

マルミノヤマゴボウ→

天空展望台からは葛城山や二上山、大和盆地や大阪の市街地が眺められ、望遠鏡が備えてありました。



秋田・花の山旅 森吉山

前号に掲載した「秋田・花の山旅」の2日目は秋田県北部の森吉山に登りました。ここ阿仁地方は昔からマタギ(古くからの伝統を重んじる猟師の集団)狩猟で有名。深い山と森林がひろがっており、森吉山はそのど真ん中。

切れ目なく続くお花畑

ゴンドラは一気に山稜へと私たちを運び、そこから頂上に向かう登山道は灌木の林、草原、湿地などを抜けていきますが、切れ目なく花が続きます。

灌木林の縁にはニッコウキスゲやアカモノ、ゴゼンタチバナ、ミヤマホツ

↑ニッコウキスゲの群落の中を森吉山へ ツジなどが、草原ではキンコウカの群落が目を引き、タチギボウシ、ハクサンシャジン(ツリガネニンジンの高山型)、ハクサンフウロ等が、そして湿地ではイワイチョウやギボウシ、モウセンゴケが花を開いていました。

山、山、山

海拔1454mの山頂からは360度の眺望、南には見渡す限りの緑の山々の中に前日歩いた八幡平や

岩手山が頭を出しており、明日登る秋田駒ヶ岳もその手前の乳頭山も浮かんでいました。

そして遠くに鳥海山がその秀麗な山容 **↑キンコウカの群落** を見せ、北側には白神山地の連なりの右側に岩木山の鋭鋒が見えました。

←モウセンゴケ すぐには分からなかった小さい白い花はモウセンゴケでした。赤茶色の繊毛に縁どられた葉で虫をからめとって消化する「食虫植物」です。栄養の乏しい場所での生き方の一つですね。

